

# 佐久地区社会教育連絡協議会総会研修会 発表 台本

## スライド1 表紙

## スライド2

皆様、こんにちは。本日は令和 8 年度 佐久地区社会教育連絡協議会の研修会において、佐久市社会教育委員会議の取り組みについて発表させていただきます。

本日の発表は、大きく 4 つの構成でお話しします。

1 つ目に「佐久市の概要」、2 つ目に「佐久市社会教育委員会議の変化について」、3 つ目に具体的な「活動内容」、そして最後に「これから」についてです。

## スライド3

はじめに、佐久市の概要をご紹介します。

現在の佐久市は、2005 年に佐久市、臼田町、浅科村、望月町が合併して誕生しました。浅間山や八ヶ岳などの雄大な山々に囲まれた、豊かな自然と文化が息づく高原都市です。

総人口は約 9 万 6 千人で、長野県内 4 位、社会増加数については県内 1 位となっています。東京からのアクセスもよく、近年県外からの移住者が増加しています。

また、東京の自由が丘や兵庫の神戸市と並び「日本三大ケーキのまち」と呼ばれているほか、「北斗の拳」原作者である武論尊先生の出身地であることから、「北斗の拳」の聖地としてもコラボ事業が展開されています。市内には北斗の拳がデザインされたマンホールが 15 ヶ所に設置され、バルーンフェスティバルでは北斗の拳のバルーンに乗ることができます。

## スライド4

続いて、私たちの「佐久市社会教育委員会議」の概要と、これまでの変化についてお話しします。

佐久市社会教育委員会議は、学校長や公民館、人権や文化振興など多様なジャンルから推薦された「あて職」8名と、学識経験者4名の計12名で構成されており、任期は2年間です。年間で4回の定例会と、教育委員との意見交換会を1回開催しています。

## スライド5

以前の社会教育委員会議は、定例的に集まって事務局から事業計画や報告を受けることが主な内容でした。

研修や講座への参加はしていたものの、市からは特定事項の諮問がなく、活動は個人に任される「独任制」の側面が強い状況でした。

しかし、「佐久市社会教育委員会議として何かを成し遂げたい」という思いから、会議に改革が起きました。

## スライド6

改革の第1弾として、令和元年に社会教育委員だより「そよかぜ」を創刊しました。これは社会教育委員の知名度向上や活動の周知を図るために、社会教育委員の提案で作成したもので、市のホームページや社会教育施設を通じて発信し、現在13号まで発刊しています。

## スライド7

そよかぜ12号では全国大会や甲信越静大会に参加した委員の感想レポートを掲載しました。皆さんのお手元には令和8年1月に発行した13号をお配りしておりますので、よろしければあとでお読みください。

## スライド8

さらに改革の第2弾として、研究調査する活動テーマを自発的に設定することにしました。令和3年にワールドカフェ形式で話し合いを行い、地域の課題や問題に対して、社会教育委員として何ができるのか話し合いをしました。

## スライド9

こちらは委員が出した地域の課題や情報です。地域交流の減少や防災、担い手不足など、様々な課題を洗い出しました。

## スライド10

これらの課題から、私たちは活動テーマを「みんなの『居場所』について考える」に決定しました。

## スライド11

「居場所」に関連して4名ずつ3グループに分かれて課題や取り組みを考えて活動してきました。

## スライド12

グループで調査活動を進め、それぞれの調査活動の成果を会議にて報告していただき、全体での情報共有を図ることとしました。

## スライド13

なお、多世代交流グループは委員の任期交代のため、令和5年6月をもって活動終了となりました。

## スライド14

会議を開催するまでの経緯についてご説明します。

はじめに、市内のCSの活動状況を知るために、14小学校7中学校に学校を通じてアンケート調査を行いました。

調査の結果、教職員がコーディネーター業務を兼ねており、学校と地域を繋ぐ役割の地域コーディネーターは数名しかいない状態でした。

アンケート調査の中で先生方から地域コーディネーターを求める回答があり、CS の活動を進めるうえで最も重要な役割を担う存在だと考え、他校の取組みを知ってもらうために「CS 関係者会議」を行いました。

## スライド15

① 学校がコーディネーターなどの地域人材を発掘することは、思った以上に大変なことでした。先生方は異動されるので、地域で信頼できる人材になかなか辿り着けずいたり、個々にボランティア活動は行っているでも CS 内での横の繋がりができていなかったりします。

② 佐久市の CS の取組みは 2017 年に各学校で組織化されましたが、それ以前からも読み聞かせであったり見守り活動など様々な活動が行われてきたので、ボランティアの高齢化や担い手不足を心配する声も多く聞かれます。

③ ②に加えて地域に CS の取組みがなかなか伝わらず、ボランティアの口コミで仲間を集めなければならない、ただ募集するだけでは集まらないという状況もあります。

④ 佐久市の場合、CS の取組みは学校が主体なので学校教育課の管轄です。ですが、そこに関わる地域ボランティアの皆さんは社会教育が担う部分が大きいです。「CS 関係者会議」は CS に関わる方々が学校の垣根を超えた横の繋がりを作るために行ってきました。学校が主体で共有できない部分を行政ではどちらが補いサポートしていくのか？も課題です。

⑤「CS 関係者会議」は社会教育委員の自主的な調査活動として行われてきました。昨年度は佐久教育会とのつながりができ、教育会主催で会議を設けましたが、今後はどのような形で継続可能にしていくのか。

以上の課題点から社会教育委員としてできることを検討しました。

① 幸いなことに佐久市では社会教育委員と教育委員の懇談が行われています。この懇談の場で教育委員の方に、これまでの調査の報告を行ってきました。会議の開催は希望も多いので今後も続けられるようお願いしていききたいと思います。

② CS の取組みの情報発信の手段として「そよかぜ」を活用していきたい。

## スライド 16

各学校の取組みの情報を共有するなかで、地域コーディネーター不在の解消や、コーディネーター同士の繋がりができてきました。

中学校は CS について難しい状況でしたので中学校区の公民館の方にも参加していただき、中学校の活動に協力できそうなことはないか?を話し合ってもらいました。

CS の取組みがわからず参加されていた方も、回数を重ねるうちに次第に顔見知りも増え小学校では 2 年間の間に地域コーディネーターを引き受けてくれる方が増えました。最近では、広報誌などで CS の取組みを紹介する発信が行われるようになり、教育委員会内でも少しずつ変化が出てきています。

以上が CS グループの活動の説明になります。

## スライド 17

次に、子育て支援グループの活動についてご報告します。まずは市内の子育て支援窓口の現状把握から始めました。

調査の結果、「学校教育課」や「子育て支援課」「健康づくり推進課」「生涯学習課」といった行政の事業だけでなく、「心のほっとライン・佐久」や各種 SNS 相談など、多数の支援機能が存在しているものの、それらが分散・点在している状況であることが分かりました。

また、支援を必要とする対象者の調査も実施しました。「子ども」と一口に言っても 0 歳から 18 歳までと幅広いため、まずは乳幼児の母親を対象にアンケートを行いました。その結果、乳幼児期は定期的な健診などがあり、比較的支援の場が充実していることが分かりました。

一方で、ヒアリングを進めると、教育移住者の方が孤独感を抱えていたり、不登校の児童・生徒についての悩みを抱えていたりする実態が見えてきました。

## スライド18

こうした調査やヒアリングを通じて、大きく4つの課題が浮き彫りになりました。

1つ目は「居場所の存在や支援情報が十分に周知されていないこと」、2つ目は「継続的な運営のための財源確保が困難であること」、3つ目は「不登校児童・生徒の居場所が、学校によっては出席扱いにならないこと」、そして4つ目が「相談窓口が多岐にわたり、利用者が適切な支援にたどり着きにくいこと」です。

私たちはこの状況を改善するため、分散している窓口を一つにまとめる「ワンプラットフォーム化」が必要不可欠であると考えました。そして、その具体的な対策として、「情報を一元化したカード」を作成したいと提案しました。

## スライド19

この提案に基づく具体的な成果として、私たちは実際に、相談先を一元的にまとめたカードの試作版を作成いたしました。さらに、これを単なる試作で終わらせず、トライアルとして市内の〇〇に設置し、実際に支援を必要としている方に届くかどうかを検証する取り組みへとつなげることができました。

## スライド20

こうしたグループ活動に加え、全体でもサポートルームの現地視察や、教育委員との意見交換会を実施してまいりました。

## スライド21

そして令和7年10月には、これまでの活動内容と対応策の提案をまとめた報告書を教育委員会へ提出しました。教育委員会でも私たちの提案を受けて議論が行われ、CSの好事例の横展開の推進や、福祉課の新システムと連動した「一元化マップ」の作成を予算の範囲内で支援する方針が示されました。

## スライド 22

最後に、これまでの活動を振り返っての課題とこれからについてです。

活動の中では行政に対してどこまで踏み込んでいいのか「縦割り行政の壁」を感じることもありました。しかし、CS グループは会議の準備に注力して回数を重ね、子育て支援グループは月に 1 回集まることで強い信頼関係を築き、壁を乗り越えてきました。

## スライド 23

今後は、「そよかぜ」の周知方法を見直しつつ発行を継続します。

また、5 年に 1 回となる佐久市教育振興基本計画策定のタイミングに合わせ、これまでの活動が施策に活かされるよう意見を出し、引き続き主体的な活動を行ってまいります。

## スライド 24

佐久市の発表は以上となります。ご清聴ありがとうございました。